

核兵器廃絶の思いを胸に

NPT再検討会議・ニューヨーク行動



8000人の国際行動日のパレード



セントラルパークでの署名活動

4月25日から5月1日、大阪民医連から22人(同仁会7人含む)の代表団が、NPT再検討会議・ニューヨーク行動へ参加しました。貴重な体験を通じて、核廃絶の思いを新たにされた参加者からの報告をご紹介します。

毎日一度は署名活動を行い、つたない英語で勇気を出して声をかけ、多くの方に署名の協力をいただきました。

1000人を超える大阪の参加者は、オレンジTシャツとオレンジの旗を掲げて行動。マンハッタ



同仁会手作りの缶バッチ



賛同してくれた警察官

踊り、掛け声など思い思いのパフォーマンスで歩きました。警備の警察官に、同仁会手作りの『核兵器禁止!』バッチを見せると、「私も賛

4月26日は、約8000人参加の反核兵器パレードへ参加。「NO!核兵器 NO!原発」[WE ARE NOT ABEI]の旗を持ち、

だど痛感しました。

他にも原水協主催の国際シンポジウムや医療労働者の集いなどに参加したり、被爆体験を聴いたりとても貴重な体験をすることが出来ました。

今回の行動参加で改めて核兵器廃絶への思いが強くなり、草の根の運動の大切さを実感することが出来ました。今後は日本でも、夏の原水禁など行動を広げていきたいと決意を新たにしています。NPTへ参加するため

毛利陽介 Dr
(後期研修医1年目)
充実した毎日でした。活動すること自体に意味があり、人が集まり結束することがとても重要であると感じました。今後の医師としての経験に今回の活動を活かしていきたいと思います。送り出してください、ありがとうございました。

代表派遣者の感想

織原花子さん
(事務)
被爆者の方の「憲法9条ができた時、泣いて喜んで。もう戦争はなくなる。9条を守りぬいてほしい」という言葉が胸に響き、私の原動力となっています。核兵器廃絶の願いをNYで訴えることができました。今後何があっても9条を守るため頑張ります。



同仁会の参加者。医師(齊藤・池田・平林・毛利)、看護師(小川)、事務(織原・角野)

に、各事業所で署名やカンパに多くのご協力をいただき、ありがとうございました。

訂正とお詫び

5月号一面の『さよならせしモニー』の記事中で「耳原実費診療所」とあるのは、「耳原診療所」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

シリーズ 現場からの視点

事例 その3

24時間見守りで安心の生活へ

「サービス付き高齢者向け住宅」に入居された90歳代の姉妹

在宅生活を長年送られていた90歳代の姉妹、今年2月に「ひまわりの家 鳳」へ入居されました。姉は97歳で要介護4、妹は要介護5の94歳です。近くには身寄りなどもありませんでした。

ご自身もポータブルトイレを使いながらのベッド上生活の姉は、傾眠傾向が強いくベッド上では不潔行為がある認知症の妹を気遣いながら生活してこられました。

安心して生活していただけるサポートを

お2人は姉妹喧嘩をする反面、どちらかが入院すると、「姉はどこにいるんですか」「妹に会わせてください」とお互いを強く意識され、涙を流される時もありました。

90代半ばで新たな生活の場へ

姉妹の住まいは老朽化が進んでおり、湯沸し設備がないため不潔行為の後に身体を拭くためのお湯を用意するにも水から沸かさないとなりません。訪問介護では生活援助のサービスの中では身体介護が認められないため、現状の介護保険内のサービ

サービス付き高齢者向け住宅「ひまわりの家 鳳」

花谷 昭子

入居されたお2人は、住み慣れた「家」ではありませんが、安心して暮らしていただくために生活に寄り添った援助ができればうれしいです。

「サービス付き高齢者向け住宅」に生活の場を移された姉妹は、2人用の居室で仲良く生活され、毎日楽しくに飲んでいるヤクルトに「美味しいな」と声を掛け合う日常が戻っています。妹さんの不潔行為があっても24時間見守り体制なのですぐに対応できるようになりました。高齢になってから生活の場を移されたお2人。住み慣れた「家」ではありませんが、安心して暮らしていただくために生活に寄り添った援助ができればうれしいです。